



群馬県コンクール 金賞

「未来へつなぐ」

吉岡町立駒寄小学校 5年 大島 沙羅

私は、保育園の頃からおじいちゃんの田んぼで遊ぶのが好きでした。田植えの前には、妹とどろ遊びをしたり、かるがもを追いかけてたりしました。けれど、ある日、大型スーパーができるため、思い出がつまった田んぼではもう遊べなくなってしまうということを知りました。私は、とても悲しくなりました。

そして、私以上におじいちゃんは、がっかりしていました。

そんな時、おじいちゃんのお友達から連絡がありました。それは、「お父さんが亡くなって使われなくなった田んぼがあるのだけど、お米を作ってみませんか。」というお話でした。おじいちゃんと一緒にその田んぼを見に行くと、その風景にがく然としました。そこは、私の身長より高い草でうめつくされていました。私は、思わず「おじいちゃん、これ本当に田んぼなの。これでお米が作れるの。」と聞いてしまいました。おじいちゃんは、「これは休耕田というんだよ。生き返らせて、またおいしいお米を作れるようにしようね。」と言いました。

それから、おじいちゃんの田んぼ通いが始まりました。一週間毎日草かりの機械を持って高くのびた雑草を切り倒しました。次にトラクターで耕してみると、でこぼこがはげしく、地面の高さがちがうことが分かりました。困っていると近所のおじいちゃん達が助けにきてくれました。一人は、ブルドーザーで地面の高さを真っ平らにしてくれました。別の人、ロータリーで土手を作ってくれました。らく農家のおじいちゃんは、牛のふんをまいてくれました。そうして、再度トラクターをかけてから水を引き入れました。

すると、田んぼがきらきらがやき、見事に生き返ったのです。田植えも無事に終わり、今、緑の稲がすくすく育っています。秋になったら、また金色の稲穂を見ることができます。

おじいちゃんとお友達も本当にうれしそうです。

「みんなすごいね。」と言ったら、おじいちゃん達は「ご先祖さん達は、昔、機械がなかったから、全部人の力で田んぼを作り、お米を作ってきたんだよ。そして、みんなで力を合わせてずっと守り続けてきたんだよ。本当にすごいことだよ。」と教えてくれました。

私は、今まで田んぼがどんなふうに使われてきたのか知りませんでした。

休耕田の再生を見て、お米作りの大変さを学びました。

これからも、未来のために田んぼをずっと守っていかなければならないと思います。

今から、新しい田んぼでとれる新米を食べるのがとても楽しみです。